

金属きんぞくをつくる金属工業きんぞくこうぎょうと、自動車や船などをつくる機械工業きかいこうぎょうは(1…?工業)とよばれ、原油などから化学肥料やプラスチックなどをつくる化学工業と合わせて(2…?工業)といい、これが日本の工業生産額のほとんどをしめています。

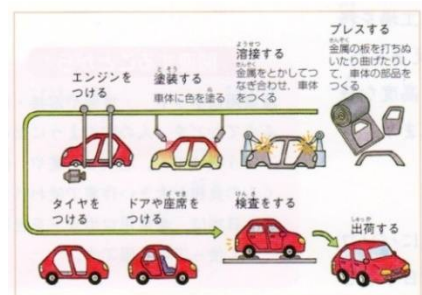
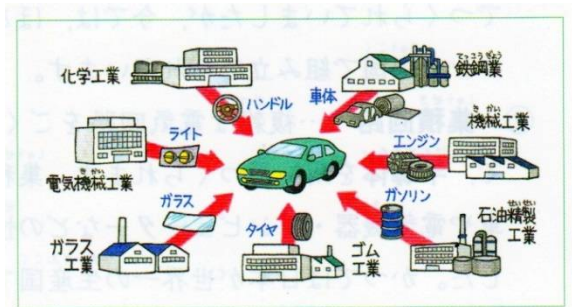
石炭を蒸し焼きにした(3…炭素の固まりのこと)や石灰石を鉄鉱石に加えてつくる鉄鋼業は製鉄業ともいい、金属工業きんぞくこうぎょうの中心です。鉄鋼生産量の世界の1位は(4…外国名)です。原料の輸入に便利な(5…?部。海沿いの地域のことに)製鉄所せいてつじょがつくられます。

アルミニウムは、ボーキサイトを原料にして(6…カタカナ)をつくり、それを電気分解して取り出します。電気代の高い日本はそのほとんどを輸入ゆにゅうしています。

機械工業のうち、もっとも生産額が多いのが自動車です。

自動車生産台数の世界1位は(7…外国名)ですが、メーカー別の順位では日本の(8…カタカナ)で自動車が世界の上位です。

自動車は2～3万個の部品からできており、多くの部品をつくる工場にささえられています。こうした工場を(9…?工場)といい、多くの人たちが自動車に関連する仕事で働いているため、この工業は日本の(10…?の?)といわれています。



自動車は左のように(11…?作業)でつくられており、必要な部品を必要な量だけ必要な時に運び込む(12…カタカナで?方式)という生産方式をとり、かかる費用を下げる努力をしています。また、人件費や土地代をさらに安くできる海外でつくる(13…?生産。現地生産のこと)がふえていましたが、ミャンマーのように、政情不安(内戦が続いている)から撤退する企業も増えています。

これからの世界の主流になると思われる電気だけで走るEVイービーと言われる(14…?車)、ガソリンエンジンと電気モーターを組み合わせたHVエイチビーとよばれる(15…?カー)、家庭のコンセントから充電じゅうでんすることができるPHVピーエイチビーとよばれる(16…?車)、水素を燃料にして排気ガスを出さずに走るFCVエフシービーとよばれる車(17…?車)といえます。

造船量ぞうせんりょうの世界の1位は(18…外国名)で、2位が(19…外国名)、日本は3位です。

コンピュータ・複写機などの頭脳のはたらきをするICやLSIなどの(20…?回路)は電気を通したり通さなかったりする(21)を使ってつくり、炊飯器や自動車など、私たちの身の回りのほとんどの製品せいひんに使われています。

危険きけんのともなう作業を、人に代わって行う機械を(22…?ロボット)といい、日本はこうした機械にすぐれた技術をもっています。

石油化学製品の原料となる(23…カタカナ)はタンカーで運ばれてくるため、港のそばに工場が建設されています。また、石油精製工場と石油化学工場は、同じ原料を使うため、その工場同士はパイプで結ばれており、このしくみのことを(24…漢字とカタカナ)といいます。

生活の変化にともない、冷凍食品や常温でも保存できて温めるだけですぐに食べられる(25…?食品)の生産量が増えており、その重要性が高まっています。また、米や麦を発酵させてつくるビールや、しょう油・酒・みそなどをつくる(26…?業)も食料品工業です。

ニューセラミックスといわれる(27…カタカナ)などの焼き物は、固くて熱に強くさびないため、ナイフ・電子部品・自動車部品・人工骨などに広く用いられています。また、セメント工業は原料の(28…?石)がとれる山口県や埼玉県などで発達しています。



木材を細かくくだいた(29…図の左)を薬品で溶かして取り出したせんいがパルプです。これが紙の原料になります。ほとんどは輸入しています。



せんいは、綿花からつくる綿織物、生糸(まゆ)からつくる絹織物、羊毛からつくる毛織物などのことをまとめている(30…?せんい)と、石油からつくる(31…?せんい)に分けられます。生産量のほとんどは石油からつくるせんいがしめており、ユニクロに代表されるように、中国や東南アジアなどで生産した製品を輸入する衣料の(32…?輸入)が増えて、国内の生産額は減っています。